



この本のここが好き

本編で紹介できなかった読書コンシェルジュお気に入りの一冊を、とっておきの場面とともにご紹介いたします。

『グリム童話集1 (白雪姫)』
(グリム兄弟/著 植田俊郎/訳 新潮文庫)

「いら草さん、
小さい株のいら草さん、
どうしてひとりでの。
もとはわたしとふたり連れ、
煮も焼きもしないまま
わたしはおまえを食べました」

「マレーン姫」 P 53-54より



(小山高 Aさん)

『チア男子!!』
(朝井リョウ/著 集英社文庫)

…やるからには、素敵な演技にし
よう、と翔が締めくくった。
「七人で、越えよう」
一馬は、テレビ画面の中で停止
している母の笑顔をちらりと見た。

「4 チーム」の章 P 144-145より



(小山高 Tさん)

『幻想郵便局』
(堀川アサコ/著 講談社文庫)

…きりりと正装した紳士淑女が、行
儀良く列を作って花咲く庭を歩いて
いる。

つるバラやテッセンを絡めた見事
なゲートが、一行の向かう先に建っ
ていた。

その列がうっすらとにじんで透明
になり、風景に溶けてゆくように見
えた。

「1 山のとっぺんの郵便局」の章 P 39より

(宇都宮北高 Aさん)



『スピン』
(山田悠介/著 角川文庫)

突然響いた、『動くな』という叫
び声。修一は何が起きたのか分か
らなかった。他の乗客の目も、一
斉に彼に集まる。不可解な状況に
五人の女子グループがヒソヒソと
話し始めると、少年はすかさず、
「静かにしろ！」
と怒鳴った。

「7.水戸→東京 02」の章 P 39より



(鹿沼高 Tさん)

『グリーン・グリーン』
(あさのあつこ/著 徳間書店)

「あたし、豚としゃべれる人
に初めて出会いました」

「2 これから、ここから」
の章 P103より

(宇都宮文星女子高 Mさん)



『羊男のクリスマス』
(村上春樹/著 佐々木マキ/著
講談社文庫)

「まったく、去年の
十二月二十四日に
ドーナツを食べた
くらいでこんな目
にあわなくちゃな
らないなんてなあ」

P 52-53より



(黒磯高 Rさん)

『忍びの国』
(和田竜/著 新潮文庫)

「——この者どもは
人間ではない」

第2章 P 68より

(那須清峰高 Yさん)



続きはぜひ、読んでみてね

